

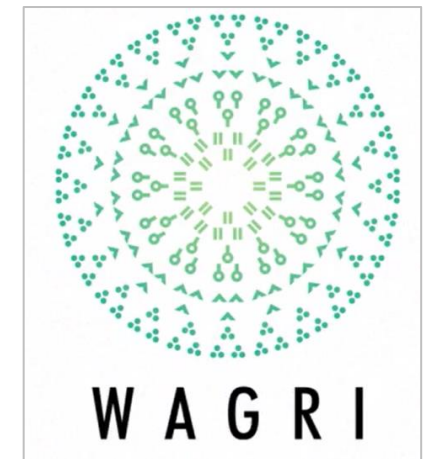
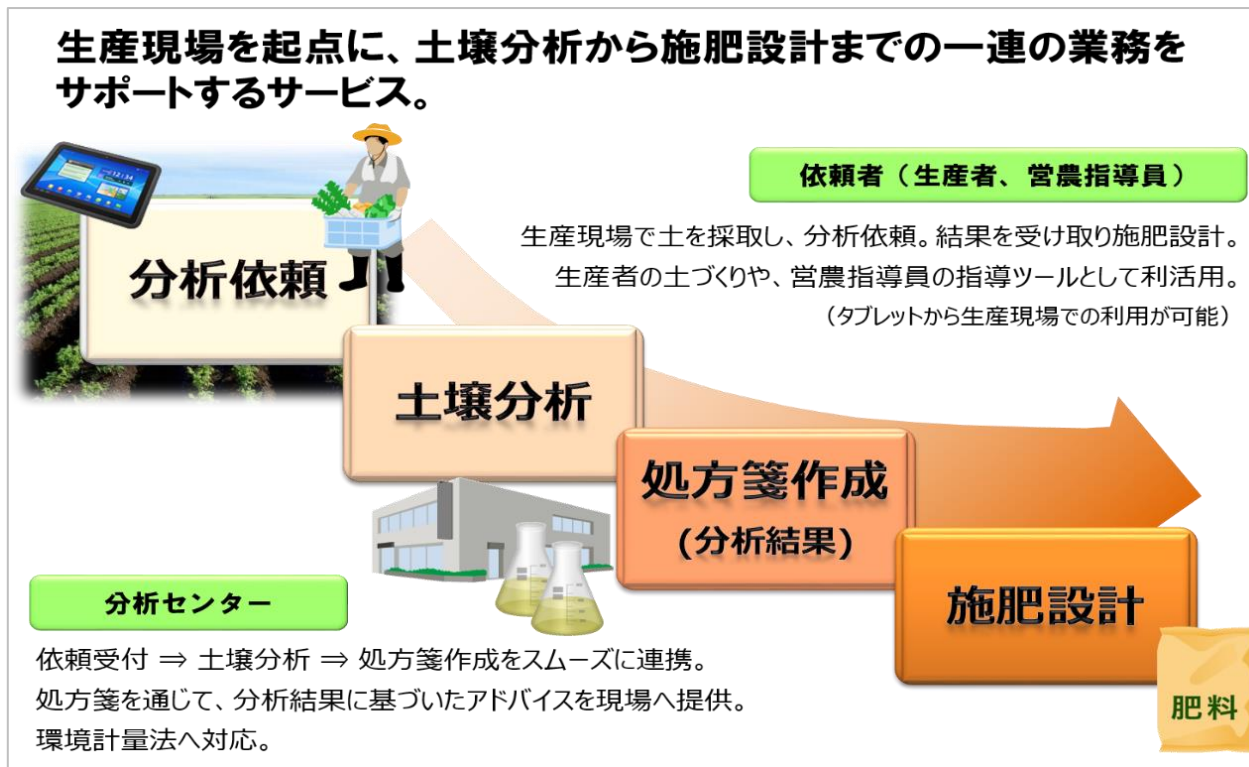
農業データ連携基盤 活用事例集

本資料は、農業データ連携基盤（WAGRI）の利用をご検討
いただいている皆様に対して、WAGRI利用者の取組を参考に、
WAGRIで**実現できるサービス**や、WAGRI**活用のメリット**などをご
紹介するものです。

富士通株式会社 様の取組事例

(富士通様が提供する自社サービスへのWAGRI APIご活用を検討)

- **富士通では、分析センター職員やJA指導員、生産者向けに処方箋や施肥設計書を作成できる 土壤分析/施肥設計SaaSを提供しており、システム内で利用している肥料データのマスターとして、WAGRIの登録肥料APIが利用できるかを検討しました。**



W A G R I



※サービス紹介資料より転載

富士通株式会社 様の取組事例

(富士通様が提供する自社サービスへのWAGRI APIご活用を検討)

- 土壌分析/施肥設計SaaSは、処方箋や施肥設計の中で**最適施肥のために、肥料マスタにある肥料銘柄の含有成分を検索して、投入量組合せを調整**しています。

■ 参考情報として、土壌分析/施肥設計の具体的な現場運用の流れを記載。



➢ 土壌分析の結果から、作物生育に必要な成分(N P Kなど)と施肥量、それをまかなう肥料銘柄の組合せを設計し、肥料の購入や圃場への施肥作業を実施。

※サービス紹介資料より転載

- 今回富士通は、**肥料IDを主キーとして持つ登録肥料API**を土壌分析/施肥設計SaaSで利用できるかを検討しました。

富士通株式会社 様の取組事例

(富士通様が提供する自社サービスへのWAGRI APIご活用を検討)

- 現状、土壌分析/施肥設計SaaSの肥料マスターの登録は、お客様に手作業等で入力していただいています。
- 今回、WAGRIの登録肥料APIを活用することで、お客様側の肥料マスター登録負荷の低減や、施肥設計の効率化等につながるかを検討しました(右下図)。

【現状の仕組み】



【今回想定するAPI利活用のイメージ】



WAGRI APIを活用したイメージ

APIで取得したデータを、検証用のデータベースに取り込みをした結果



登録肥料API

	fertilizer_jd [PK] character varying (100)	regist_number character varying (100)	regist_date character varying (30)	fertilizer_name character varying (100)	component_code_1 character varying (50)	amount_1 numeric (8,5)	component_code_2 character varying (50)
1	a011000000JG5I4AAD	生第81565号	2001-05-10T00:00:00	くみあい複合燐加安 8 6 4	AN	8.00000	SP
2	a011000000JG66pAAD	生第88927号	2008-07-25T00:00:00	新東高度化成 4 4 8	AN	14.00000	SP
3	a011000000JG66qAAD	生第88930号	2008-07-25T00:00:00	苦土有機入り化成 0 4 7	TN	10.00000	IAN
4	a011000000JG66rAAD	生第88931号	2008-07-25T00:00:00	苦土有機入り化成 5 5 5	TN	5.00000	IAN
5	a011000000JG6CGAA1	輸第13315号	2012-03-26T00:00:00	9. 0 腐植酸苦土肥料	CMG	9.00000	IWMG
6	a011000000JG6CHAA1	輸第13316号	2012-03-26T00:00:00	ひたち加工苦土肥料	CMG	55.00000	IWMG
7	a011000000JG6CIAA1	輸第13302号	2012-03-26T00:00:00	マイクロブレンド 1号	WMN	3.50000	WB
8	a011000000JG6lwAAL	生第83009号	2002-08-26T00:00:00	化成 8 8 8	AN	8.00000	SP
9	a011000000JG6lxAAL	生第83008号	2002-08-26T00:00:00	高度 4 4 4	AN	14.00000	SP
10	a011000000JG6lyAAL	生第82977号	2002-08-26T00:00:00	日植 1号	TN	19.00000	WK
11	a011000000JG6IzAAL	生第82972号	2002-08-26T00:00:00	エーリン苦土入り液肥 0 5 4号	TN	10.00000	INN
12	a011000000JG6rBAAT	輸第6233号	1994-08-25T00:00:00	3. 5 蒸製骨粉	TN	3.50000	TP
13	a011000000JG6rCAAT	生第75505号	1994-09-12T00:00:00	くみあい園芸用混合りん肥 3...	CP	9.00000	IWP

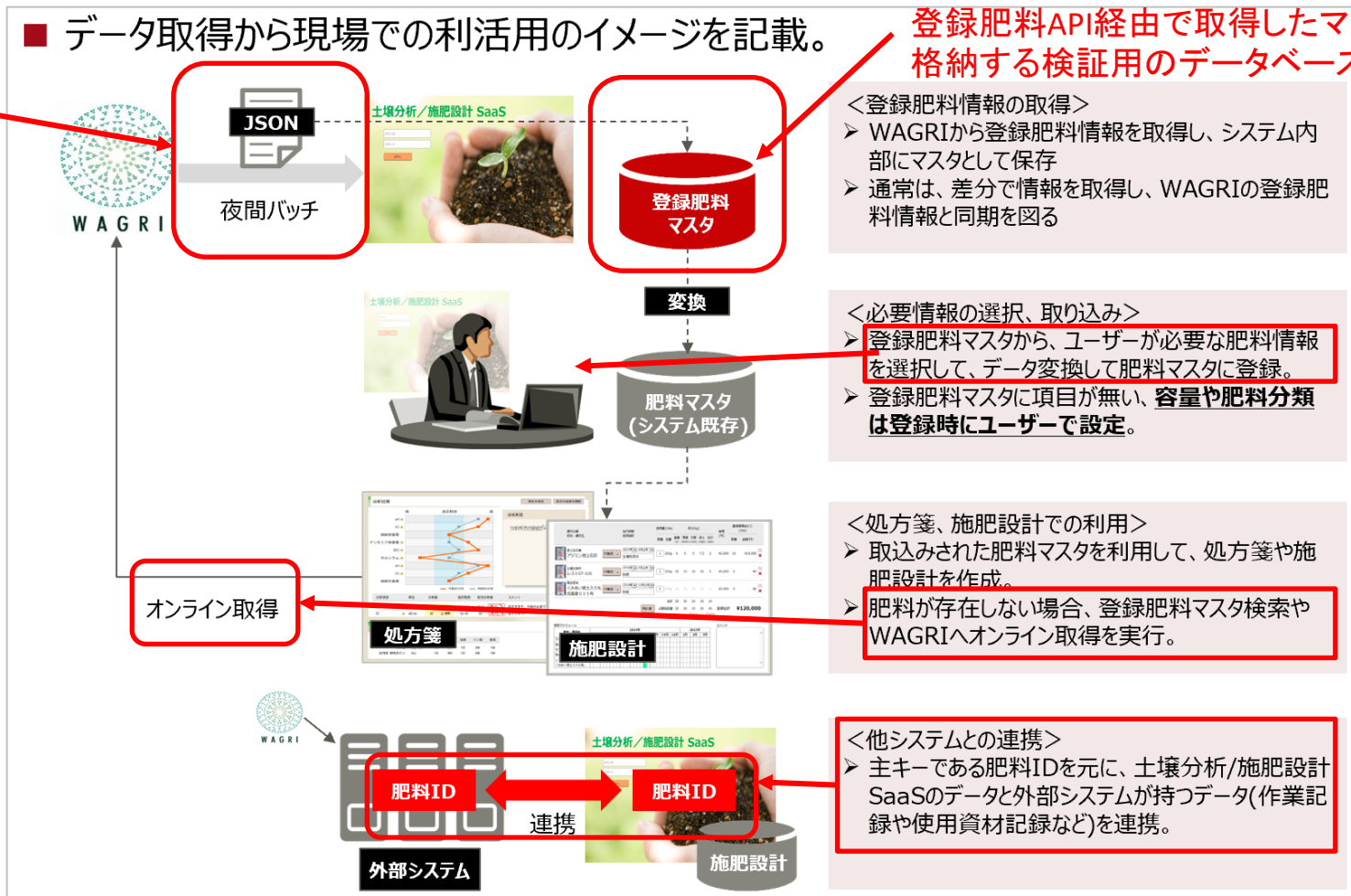
富士通様がご利用されたWAGRI API

利用したWAGRI API		利用目的	
登録肥料API	肥料登録銘柄データ、固有ID、更新区分、失効年月日など	Fertilizers	効率的な肥料マスターデータの更新

■ データ取得から現場での利活用のイメージを記載。

登録肥料API

登録肥料API経由で取得したマスターデータを格納する検証用のデータベース環境



<登録肥料情報の取得>

- WAGRIから登録肥料情報を取得し、システム内部にマスタとして保存
- 通常は、差分で情報を取得し、WAGRIの登録肥料情報と同期を図る

<必要情報の選択、取り込み>

- 登録肥料マスタから、ユーザーが必要な肥料情報を選択して、データ変換して肥料マスタに登録。
- 登録肥料マスタに項目が無い、容量や肥料分類は登録時にユーザーで設定。

<処方箋、施肥設計での利用>

- 取込みされた肥料マスタを利用して、処方箋や施肥設計を作成。
- 肥料が存在しない場合、登録肥料マスタ検索やWAGRIへオンライン取得を実行。

<他システムとの連携>

- 主キーである肥料IDを元に、土壌分析/施肥設計SaaSのデータと外部システムが持つデータ(作業記録や使用資材記録など)を連携。

WAGRI活用によるサービスプロバイダー様のメリット

	WAGRI活用のメリット	WAGRIを活用しない場合の対応等
API連携による 効率的なデータ登録	<ul style="list-style-type: none">WAGRIの登録肥料APIを活用することで、お客様が肥料マスターを登録する際は、管理画面から選択するだけでマスターデータを取得することが可能になり、登録作業が効率化される。	<ul style="list-style-type: none">肥料マスターをお客様が手作業等で登録する必要があり、手間がかかる。
他システムとの 連携時における 効率性や確実性の高い データ連携	<ul style="list-style-type: none">土壌分析/施肥設計SaaSのデータと外部システムが持つデータ(作業記録や使用資材記録など)を連携したい場合は、主キーである肥料IDを活用して効率的かつ確実に連携が可能となる。	<ul style="list-style-type: none">土壌分析/施肥設計SaaSのデータと外部システムが持つデータ(作業記録や使用資材記録など)を連携したい場合は、共通となる主キーが存在しないため、紐づけ・連携が難しく、対応負荷が大きい。